

北イタリア安全対策情報（2024年4月～6月）

1 治安情勢

当地では、依然として窃盗事件が高水準で発生しており、多数の邦人が被害に遭っています。

ミラノの地下鉄内やベネチアの観光地等でスリ被害が多発したほか、フレッチャロッサ等の列車内での置引き被害が目立ちました。なかでもバッグの中に入れていた貴重品入れ（ポーチ等）を盗難に遭うケースが多く見られました。

また、深夜帯において、若者同士の刃物を用いた暴力事件や強盗致傷事件の発生が目立っています。「ここは日本ではない」という意識を持ち、深夜帯の外出はできる限り避け、防犯対策に努めていただくようお願いいたします。

2 日本人被害（件数は当館に届け出のあったもののみを計上）

以下は、日本人の犯罪被害の事例をまとめたものです。

(1) 車上狙い: 1件（1月～3月：0件）

被害例：観光中、駐車していた車両のトランク内からバッグが盗まれた。

(2) 置引き: 13件（同：4件）

被害例：列車に乗車中、網棚の上に置いていた（または席に掛けていた）バッグが目を離した際に盗まれた。

(3) スリ: 17件（同：19件）

被害例：列車に乗車する際、ドア付近で3～4人の集団に邪魔をされて奥に進めずもみくちや状態となったが、列車が動き出した瞬間に同集団が降車したため、不審に思いショルダーバッグ内を確認したところ貴重品が盗まれていた。

(4) ひったくり: 1件（同：1件）

3 殺人・強盗・誘拐等凶悪犯罪例

以下は、凶悪犯罪被害の事例（日本人以外の被害者）です。

(1) 4月下旬の未明、ミラノ市ワルシャワ通りで、ボスニア人少年（18歳）が駐車中の車内にいたところ、数名の集団に襲われ、こん棒様のもので窓ガラスを割られた後、胸を銃で撃たれて殺害された。

(2) 5月上旬の夜中、ミラノ市アレッサンドロ・マンゾーニ通りで、アジア系男性（20歳）がバスを降りたところ、北アフリカ系の2人組の男に金品を奪う目的で声を掛けられ、その後刃物で刺され大けがを負った。

(3) 5月上旬の夜中、ミラノ市ランブラーテ駅前で、通行人に石を投げたり殴打したりする等の暴力を加えていた男（37歳、北アフリカ出身）を警察官（35歳）が取り押さえようとした際、刃物で背中3カ所を刺され、一時意識不明となる大けがを負った。

4 テロ・爆弾事件発生状況

イタリア国内においてテロの発生はありませんでしたが、中東情勢の緊迫した状況により、イタリア治安当局による高いレベルでの警備が行われています。

5月下旬には、イタリア国内において、テロを目的として武器や爆発物を所持していたトルコ系犯罪組織のメンバー19人が逮捕されるなど、依然として警戒が必要な状況が続いています。

5 対日感情の変化、日本企業の安全に関する諸問題

特になし。